

R. I. District 2610. ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2012-2013年度 RI会長 田中 作次
2012-2013年度 魚津RC会長 野澤 良成



第2856回 例会報告

2013年1月25日

点鐘・握手

ロータリーソング「我等の生業」

ゲスト並びにビジターの紹介 池上親睦副委員会

ビジター: 大城 宗文 様 (魚津西ロータリークラブ)



誕生祝

1月25日 川岸君

入会早々に誕生日を祝って頂き有難うございます。昭和27年1月25日、正確には、おふくろの話によれば晩の11時30分に産まれたそうです。このようにたくさんの人に誕生日を祝ってもらったのは人生で初めてではないかと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



1月26日 寺崎夫人



誕生日を祝って頂いた妻は明日26日が誕生日で今日は70歳最後の日です。皆さん、良い家庭を持っておられると感心していますが、私ども皆さんに負けず劣らず45年間ほど家庭生活を営んでいます。まだ一度も女房と喧嘩したことがありません。人間生まれた所も違い、環境も違った所で育ち、然も男と女が喧嘩しないのが不思議だと今朝も思っていました。それは我慢と諦めだったかなあと思っています。家庭生活の中で我慢と諦めをどんな所で使うか話します。若い時は、四季を通して朝前仕事をしましたものです。7時

におつゆを飲む。「塩辛い」と言うと、すぐに味噌を入れて「これでどう」「まあまあやな」…愛という事例で事が和やかに終わっていたものです。あれから40年。今朝はどうだったか。おつゆを飲む。「おつゆ、しょうもないがじゃない」「あんたの体考えてしょうもなくした」…近頃、女房の前では我慢しながら、外に出ては「昔は良かったなあ」と諦めの生活を送っています。

1月30日 三島君



昭和36年1月30日生まれで52歳になります。雪の深い時に生まれ、一番印象深いのは昭和56年の成人式です。56豪雪ですごい雪の中、成人式に行ったことを覚えています。2階から出入りしていたことも思い出です。気持ちは二十歳ですが、体は段々衰え、最近五十肩になったり、人の名前が出てこなくなったり、一番思うのは紙をめくるとき、指を舌で舐めるようになったことです。老いとの闘いから気持ちは若く持って今後頑張ろうと思っています。よろしくお願ひします。

寄付に対する認証記録伝達

- ・ マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 寺崎さん
千ドル寄付したという事で今年はバッジを頂きました。
皆さん、千ドルの寄付をお願いします。
- ・ 米山功労者 第13回メジャードナー 生駒さん



会長挨拶



風が強く、足元の良くないにも拘らず多数参加して頂き有難うございます。今日のビジターの魚津西RCの大城さん、ようこそおいでくださいました。どうかゆっくりしていきたく思います。

誕生日のお祝いの川岸さん、寺崎さんの奥さん、三島さん、それぞれ素晴らしいスピーチでした。

今朝のテレビのニュースを見ていましたら、アルジェリアに行っておられる方が10名亡くなられ、9名のご遺体が帰って来られました。私達みたいに近くだけで仕事をしている者にとっては、そんな危険な所まで行って仕事をしなければならないのか、会社の方針だから仕方ないのかなあと思いました。人材派遣で行っておられる方もいて、そんな仕事のやり方は良いのかなあと疑問にも思いました。

少し前から、新聞・テレビ等で連日取り上げられているいじめ問題。立場立場によって色んな考え方や思いはあると思います。それと、学校の先生方が早期退職することによって退職金が約150万円程余計に貰えるという事ですが、学校の先生だけかと思っていたら、警察官もそうなんだという事が書いてありました。教員の方は生徒さんの事、警察官の方は市民を守る治安の事などあまり気にしないで仕事をされていたのかなあとと思うと非常に残念な事だと思います。

そこで、月初めの例会で全員で唱和している四つのテスト〔1 真実かどうか 2 みんなに公平か 3 好意と友情を深めるか 4 みんなのためになるか どうか〕の特に4を私達ロータリアンはいつも意識しながら、日常の仕事や生活をする事が大切ですので私達も努力しなければならないと思っています。

例会前に臨時の理事会を開催しました。2013-2014年度インターターアクト委員会委員長に野澤良成を推薦するという書面でそれについて協議しました。結果については、幹事から報告してもらいます。

今週の23日のフグを食する会には、若井さんに商売抜きで非常においしいフグのフルコースを調理して頂きました。私も初めて食べる事ができました。大変上品な味で、来年もあればいいなあとと思っています。親睦委員長の中田さん、参加者の皆さんに感謝申し上げます。



色んな企画をしながら楽しいロータリー活動になればいいなあとと思っています。都合の付くときにそれぞれ得意な分野に参加して頂けたらと思っています。

幹事報告

・臨時理事会報告

国際ロータリー2610地区のガバナーエレクトから、2013-2014年度インターターアクト委員長に野澤良成さんの推薦がありました。魚津クラブとして受ける事になり承認されました。

- ・ガバナー事務所より 書き損じはがきキャンペーンについて
- ・第2520地区 第8分区ガバナー補佐より 仙台空港支援プロジェクト事業について
- ・魚津市社会福祉協議会より 防災講演会のご案内
- ・並行在来線等対策連絡協議会より 講演会のご案内

- ・2月 1日 卓話 山澤君 大城君 (サンルート)
- ・2月 8日 卓話 大島君 羽田君 (サンルート)
- ・2月15日 ゲスト卓話 元魚津市立西部中学校校長 畠山敏一様 (サンルート)
- ・2月22日 卓話 杉野君 (サンルート)
- ・2月SAA補助 寺崎、広浜、吉崎君

出席報告 坪野出席委員

本日の出席者 34名 出席率 85% 欠席者 6名

メイクアップ済み 吉森さん 羽田さん
2854回のメイクアップ なし
2854回の修正出席率 90%→90%

ニコボックス報告 辻英晴ニコボックス委員長

- ・辻浩さん→皆出席表彰を受けました。遅くなりました。
- ・野澤さん→今年、三ヶ1区の区長、三ヶ自治会の会長になりました。ロータリーの活動の支障にならないようやりますのでよろしくをお願いします。

委員会報告 なし

本日の卓話

「新年の思い」 生駒さん



北日本新聞の色紙チャリティに何時頃から出品しているか調べましたがデータがありません。なぜ依頼があったかという、私が茶道裏千家淡交会魚津支部長をしており、所謂「文化人」となっているからです。文化人とは程遠いのですが、北日本新聞に「風向計」、「わが半生の記」を頼まれて書きました。

4年前ですか、「絆」という色紙を出しました。清水寺の管長さんが「絆」を出された2年前程です。今、ホテル

の新婚さんに「絆」の色紙を渡しています。時々、知っている人にご挨拶するとき、今までお世話になったご両親、兄弟、色んな方々との絆を大切にしてほしい、ましてや結婚した旦那さんと仲良くしてほしいと言っています。

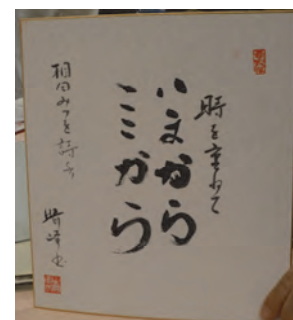
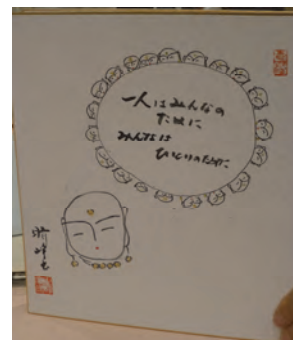
「ひとりみんなのために みんなはひとりのために」、選挙の立候補者は当選すると「みんなのために一生懸命にやらなければならない」と言います。野澤会長が話されたアルジェリアの人質事件に関して、なぜ、行かねばならないか。大工さんもおられました。大工仕事がなくして派遣で行かれた訳ですが、ロータリーの四つのテストの最後に「みんなのためになるかどうか」があります。これはエネルギーのない日本のような国では、よその国のエネルギーをもらわねばならない。そのために商業としてやっていかねばならないという事だと思えます。また、今年の地区大会の時の記念講演で、私どもの会社の経営方針は教育勸語だとの話がありました。教育勸語を会社の理念として社員を大事にしている。そして社員と共にみんな足りないかどうかを考え仕事をしているとおっしゃいました。

私は、偶々、ユーキャンの通信教育で、いやし地蔵の絵を学びました。施設に入所しておられる方にいやし地蔵さんの絵を渡したら、「私の親父が仏壇を参らずに、あなたの色紙ばかり参っている」と話されました。去年の暮れに亡くなられましたが、いやし地蔵を参られたお蔭で良い所へ逝かれたと思っています。小矢部の宮大工の方から「いやし地蔵の色紙を年賀状に使いたい」との問い合わせもあり、「どうぞお使いください。」と答え、年賀状を頂きました。

1月4日からチャリティが始まったので見に行きましたら、1枚5,000円以上の入札でした。

「日本の品格」を出版された藤原さんの色紙を貰ってきましたが走り書きで何が書いてあるのかわかりません。昔は、私と中学時代同期で去年亡くなられた田代さんに見てもらおうと教えてもらえました。

去年の9月にホテルで倒れ、救急車で病院へ、40日間入院していました。もう少し遅いと駄目だったかもしれませんでした。そこで今年は相田みつをさんの言葉を引用し、ちょっと加えて、今からでもいい、少しでもいい、世の中のためにならなきゃならないとの思いで「時を重ねて いまから ここから」を出品しました。少しでもお役に立ちたいと思っています。



「宮津八幡宮の禰宜」 寺田さん



私は、去年の夏に神主になるための研修を受けて、神職として必要な階位の直階という資格を取得し、宮司の兄の具申により、神社本庁より、9月28日付で、宮津八幡宮の禰宜を拝命いたしました。禰宜（ねぎ）とは、神職の職称（職名）の一つである。宮司を補佐する者の職称となっている。禰宜の語源は「和ませる」の意味の古語「ねぐ」であり、神の心を和ませてその加護を願うという意味である。

宮津八幡宮は平安時代から続いており、兄で40代目の宮司になります。宮津八幡宮を本務神社とする田代社家は、旧国道八号線から山手の魚津市の東は片貝川流域から西は滑川の早月上流のほとんどの村、いわゆる加積郷と呼ばれる地域の氏神神社を兼務社として神明奉仕しており、神社本庁の宗教法人に登録している神社が53社と、それ以外に村で管理していたり、企業が管理している神社が数社あり、宮司の兄と供に全部で60社足らずのお社に向いて、各神社年数回のお祭のおつとめをしております。ほかにも氏子地域の地鎮祭や安全祈願祭等の依頼も多く、それぞれの氏子崇敬者のもとへ外祭に向いて神明に奉仕しております。

大村さんからロータリーへ入会のお誘いを受けた時に、「奉仕活動への興味はありますか？」と質問されました。「はい」と素直に答えました。駐在していたドイツ、ポーランド、スリランカのそれぞれの国で大なり小なり、ボランティアの色々な活動に携わってきました。ポーランドのワルシャワではIWGという外国人の奥様方の交流と奉仕活動の組織に所属して、各国大使館が出店する年末のIWGクリスマスチャリティバザーでジャパンブースのお手伝いとして毎年裏方でご奉仕していました。帰国して落ち着いたら奉仕活動に携わりたいと思っていた矢先のことだったので、お誘いを受けるまま魚津ロータリークラブへの入会の手続きをお願いいたしました。

入会した当初は、一個人として、ロータリークラブの奉仕活動の中でも特に「国際奉仕」にやがて多少なりとも貢献できる日が来たらいいなと思っておりましたが、皆さんの事業所の所在地やご自宅の住所を拝見したところ、会員の三分の二の方が「宮津八幡宮」がご奉仕している氏神神社の氏子の皆さん、あるいは事業所がその地区にあるということが分かりまして、すでにロータリアンの職業分類上の「宮津八幡宮・禰宜」として「職業奉仕」に携わっているのだと分かったところです。実際に、今年の初詣に宮津八幡宮に正式参拝に来ていただいたロータリークラブ皆さま、ありがとうございます。ほかにも事業所の安全祈願祭、起工式、大漁祈願祭などでも会員の皆さまと神事の場でお世話になりました。私が神主になって早い時期に、神事でお世話になる機会が多い企業の代表者の方とこうした交流ができたことを嬉しく思っております。

まず、私が神主になるまでの経緯をお話します。

私は社家の生まれですが、結婚して、YKKで勤務する主人の海外転勤に連れ添って、21年間の駐在生活を送ってきました。平成23年春に完全帰国をし、魚津市に転入しました。今の家を建てるまでは、私の実家の車庫の2階に仮住まいさせてもらい、最初の半年間位は、富山弁を理解できる外国人ファミリーみたいな感覚で、家族だけでひっそりと過ごしておりました。

そんな矢先、1年前の2月、父が倒れ、その日の夜に急に息を引き取りました。その時点で、この先の田代社家のことは何も話し合われておらず、兄は神主の仕事をしてはいましたが、兄独りで、多くの氏子さんを抱えていくのは大変です。

葬儀の前日の晩、セレモニーホールで私たち寺田の家族4人が、父の遺体と一緒に朝まで過ごしました。あれこれいろんなことを考えるとなかなか寝付かれなかったのですが、翌朝目が覚めたら、「私が兄を助けて、田代社家を守っていく」と胸に誓っていました。きっと寝ている間に父の託宣があり、兄を助けるべく、田代社家の将来を私と息子たちに託したのだと思います。実際に、お宮さんの仕事に興味がなかった海外育ちの息子たち二人ともが、最近になって神主の資格を取ると言ってくれるようになりました。

社会人になってから神職の資格を取るのには、通信教育を受けるか、國學院大學や伊勢の皇学館大学での講習会受講などいくつかの方法があるのですが、私は國學院大學での神職養成講習会を受講することにしました。この講習会の目的は「家職を継承するために緊急に資格を必要とする者に受講を許可することを原則としている」とあり、県の神社庁長の推薦も必要なので、神道に興味があるからといって、だれでも簡単に神主の勉強ができるという事ではありません。

これは春と夏に年2回の講習会があるのですが、夏の講習会を受けることにしました。この講習会は3段階の階位があり、直階、権正階、正階です。神職には、直階、権正階、正階、明階、浄階の5つの階位があります。私が受けたのは、「直階」という一番下のクラスで、この資格があると一般神社の禰宜になることができます。兄と同じように宮司になるには二つ上のクラスの「正階」が必要になります。神主さんが何人もいるような大きな神社、高瀬神社や射水神社のような別表神社や護国神社の宮司になるには「明階」という資格が必要で、神道系大学を卒業して一定期間の研修を受けた後でないとなれません。さらに上には「浄階」という階位がありますが、これは神職の階位の最高位です。

また、階位とは別に神職の身分制度があり、上から特級、一級、二級上、二級、三級、四級となります。これは袴の色と袴の紋で見分けることができます。ちなみに特級は白の紋袴で、全国の神主21,000人中100人足らず、富山県では二人、一級は紫の紋袴で250人ほど、富山県では井波八幡宮の綿貫民輔宮司が最高階位の浄階と特級の身分、今はさらに神社本庁から最高の功績状として「長老」の敬称を拝命されております。もう一方は高瀬神社の藤井宮司になります。

大きく脱線してしまいましたが、私が受けた神職養成講習会は8月1日から30日までの25日間、月曜日から土曜日まで、午前と午後3時間ずつの講義。毎日、朝拝と夕拝もあり、國學院大學の御神殿で正しい作法で手水を取り、受講生120名全員で祓詞、大祓詞、神拝詞、産土神社遥拝詞奏上、明治天皇御製一日一句、敬神生活の綱領の唱和をしました。時折、講義終了後に現職神主さんが講話にいらして貴重なお話を聞かせてもらったり、校外学習で明治神宮他4つの神社参拝をしました。私のクラスの受講生は57名。内女性は20名。

講義では、神社神道概説、神社本庁史、神社古典で古事記上巻、神社祭式・行事作法、国語、道徳、祝詞、神社関係法規等、その都度、レポートまたは試験があり、講義が終わって、研修施設に帰っても、仲間たちと一緒に遅くまで勉強した日もありました。

一番厳しかった授業は「道徳」で内容は、明治天皇御製と教育勅語の授業でした。國學院大學神道学部の教授が講義され、若い世代にとっては一方的に聞く授業で居眠りしてしまいそうになるのですが、先生は、居眠りする人を見つけたら、大きな声で怒鳴り、「今すぐ、顔を洗ってこい」とか本当に厳しかった。寝たから怒ったということではなく、教授は明治天皇を崇拝しておられ、明治天皇御製と教育勅語という講義の内容に対して寝るとは何事かという意味で怒鳴られたんだと思います。他にも、厳しい授業がありましたが、この授業は神主として有意義であり、日本人の神髄について考え直すには良い機会であったと思っています。

あとがき

一般に、話は脱線した方が面白い。今回の卓話でもその通りであった。生駒さんのいやし地蔵のエピソード、寺田さんの神職の階位と身分制度の件や厳しい教授の話などは興味深かった。長文になったが原稿を頂いたので全文掲載した。